



プレスリリース

平成 14 年 6 月 5 日(水)

関係者各位

大和インベスター・リレーションズ株式会社
〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-8-1
Tel 03-3243-5000(代表) Fax 03-3271-0267

平成 13 年度(2001 年 4 月～2002 年 3 月)説明会アンケート調査結果

大和インベスター・リレーションズ株式会社(社長:宮田 長吉)は、上場会社・店頭上場会社の説明会アンケート調査結果をまとめました。調査は、昨年度当社で受託した説明会のうち、上場会社・店頭上場会社 263 社の企業説明会に参加した証券アナリスト、機関投資家等を対象に実施し、約 9,700 人より回答を得ました。なお、前年度(2000 年度)は同 209 社、約 7,200 人、1999 年度は同 153 社、約 5,600 人に対し同様のアンケートを実施しております。

最近の説明会では、経理または財務担当の取締役が決算状況等について説明し、経営トップが業界動向を踏まえた今後の見通しを説明する分業体制が定着してきています。また、これとは別に、経営トップが中期経営計画等を説明する事例も増加しています。

説明資料については、決算短信に加えてパワーポイントによる説明会資料を準備する会社が増えていきます。スクリーンに資料を映しながら、手元にハードコピーを配布し、出席者の理解を助ける方法が一般的に行われるようになってきました。決算説明会の開催数が増加しているなか、速報情報として利用価値の高い資料の充実はアナリスト等がフラッシュ・レポートを書く際の強力なサポートになっています。

また昨年は9月に米国同時多発テロが発生し、またエンロンなど米国上場企業の破綻が相次ぎ、財務報告書の信頼に不安が広がりました。説明会での企業評価項目として、「安定性」と共に「財務内容」を挙げた参加者が前年度比伸びた(2 項目合計で 2000 年度 22.5%→2001 年度 26.7%)ことにも反映しています。

2000 年 10 月より企業による選別的情報開示を規制する「レギュレーションFD」(公平開示規則)が米国で施行されました。日本でも、ADSL の爆発的な普及に伴いインターネット環境が格段に改善されたことにより、米国と同様、情報開示の公平性、同時性及び透明性という視点からインターネット等を使った電子情報開示の充実と、企業説明会のインターネットによる同時中継やオンディマンド配信等の普及による一般投資家への情報提供媒体の多用化が見られます。

アンケート調査結果の要旨は、次の通りです。

1. 説明会の「事業環境・業界動向」「経営理念・将来戦略」「業績の実績及び予想」各々に対する説明を、「大変良い」「良い」「普通」「やや不満」「不満」の 5 段階から選択

- 参加者の半数以上が企業説明会の内容を高く評価。

「事業環境・業界動向」「経営理念・将来戦略」「業績の実績及び予想」に関する説明の全てで、「大変良い・良い」が半数を超えている。1999年度には47.3%であった「業績の実績及び予想」に対する評価が、2001年度に51.8%と過半数を超えている。各項目への評価は確実に上昇しており、相対的に説明内容に対する「やや不満・不満」は漸減している。

経理担当の取締役が決算概要を説明し、経営トップが今後の見通しや中期経営計画等について説明する分業パターンが定着している。このような説明会の内容が参加者から評価されてきている。

(単位:%)

説明項目	評価	2001年度	2000年度	1999年度
事業環境 業界動向	大変良い・良い	59.6	58.7	55.5
	普通	33.0	33.1	33.9
	やや不満・不満	4.7	5.5	6.8
	無回答	2.7	2.7	3.8
経営理念 将来戦略	大変良い・良い	58.4	57.4	55.1
	普通	32.3	31.9	30.8
	やや不満・不満	6.2	7.8	10.1
	無回答	3.1	2.9	4.0
業績の実績 及び予想	大変良い・良い	51.8	50.8	47.3
	普通	36.0	36.2	37.8
	やや不満・不満	9.2	9.8	10.7
	無回答	3.0	3.2	4.2

2. 説明資料について「大変良い」「良い」「普通」「やや不満」「不満」の5段階から選択

- 説明資料の高い評価も定着

「大変良い・良い」が56.6%、「普通」が31.5%、「やや不満・不満」が9.0%となった。2000年度と比較すると「大変良い・良い」が57.9%から56.6%に下がったものの、過半数を越える高い評価を得ている。決算短信に加えて、パワーポイント資料を中心とした説明資料(ハンドアウト)の高い評価が定着してきた。

(単位:%)

	2001年度	2000年度	1999年度
大変良い・良い	56.6	57.9	55.1
普通	31.5	30.7	29.6
やや不満・不満	9.0	8.7	11.3
無回答	2.9	2.7	4.0

3. 投資対象としての評価ポイントを以下から重複選択。

経営理念・戦略、業績動向、業界内シェア、新規事業展開、成長性、収益性、技術力・開発力、マーケティング、安定性、グループ力、財務内容、株主還元、その他

- 成長性、経営理念がトップグループ

点数分布から評価項目は大きく三つのグループに分類される。第一グループは「成長性」「経営理

念)、3年間を通じて20%台後半から30%台と最も重視されている。第二グループは「業界内シェア」「収益性」「技術力」で20%台前半。第三グループは「安定性」以下8項目、10%台なかば以下である。グループ間にははっきりした格差がある。また、各グループとも3年間構成項目は変わっていない。第三グループでは、新規事業展開に代わって安定性が6位に登場、景気低迷が長期化し、上場会社の倒産が相次ぐなか、安定性への関心がたかまっている。エンロンの破綻を契機としてバランスシートへの注目も集まっており、「財務内容」は1999年度の11位から昨年度9位に上昇している。

(単位:位、%)

評価項目	2001年度		2000年度		1999年度	
	順位	%	順位	%	順位	%
成長性	1	29.9	1	30.2	2	26.5
経営理念	2	29.6	2	29.1	1	33.5
業界内シェア	3	23.3	3	25.1	4	20.1
収益性	4	22.9	5	24.3	3	20.2
技術力	5	21.1	4	24.6	5	18.1
安定性	6	16.8	8	13.9	8	13.3
新規事業展開	7	16.7	6	16.4	6	16.1
業界動向	8	14.2	6	16.4	7	15.3
財務内容	9	9.9	9	8.6	11	9.2
マーケティング	10	8.9	11	7.5	9	10.4
グループ力	11	8.0	10	7.9	10	9.4
株主還元	12	2.6	12	2.1	12	2.3
その他	13	2.3	13	1.7	13	1.8

4. 現在の株価水準について「割安」「やや割安」「妥当」「やや割高」「割高」の5段階から選択

参加者による当該企業の株価評価については、急速な企業業績の落ち込みを背景に「割安・やや割安」との評価が37.5%を占め、前年度の同評価44.3%を下回った。アナリストの株価水準に対する考え方は、アナリストレポートの株価格付けに直接影響を与える可能性が高く、今後とも注目していく必要がある。

(単位:%)

	2001年度	2000年度	1999年度
割安	9.6	12.3	9.1
やや割安	27.9	32.0	24.6
妥当	32.3	30.2	37.1
やや割高	4.6	2.8	8.0
割高	1.2	0.7	1.1
無回答	24.4	22.0	20.1

5. 企業のIR活動について「大変良い」「良い」「普通」「やや不満」「不満」の5段階から選択

- 半数近くの参加者がIR活動を高く評価

「大変良い・良い」が1999年度47.7%、2000年度47.0%、2001年度44.4%と半数近くである。しかしIR活動の評価は徐々に「大変良い・良い」から「普通」に移っている。これに対して、「やや不満・不満」は減少しており、IR活動がアナリスト・機関投資家に浸透したと考えられる。

(単位:%)

	2001年度	2000年度	1999年度
大変良い	9.4	8.7	10.4
良い	35.0	38.3	37.3
普通	41.0	38.4	35.8
やや不満	3.5	5.1	5.4
不満	0.9	0.9	1.5
無回答	10.2	8.6	9.6

6. 今後のIR活動で希望する項目を以下から重複選択。

会社説明会、決算説明会、施設見学会、スモールミーティング、個別取材への協力、
決算補足資料の充実、IR刊行物の充実、インターネットの利用

● 決算説明会、会社説明会、個別取材のトップ3は不変

今後のIR活動に希望する活動として、決算説明会、会社説明会、個別取材のトップ3の順序は3年間変わらない。その中では個別取材への要望が着実に増加している。4位以下では、施設見学会が99年度の6位から4位に上昇した。逆に公平開示(FD)の影響からスモールミーティングの希望は4位から5位に後退している。

(単位:位、%)

	2001年度		2000年度		1999年度	
	順位	%	順位	%	順位	%
決算説明会	1	49.8	1	48.2	1	48.5
会社説明会	2	33.0	2	35.5	2	32.0
個別取材	3	32.4	3	31.1	3	26.1
施設見学会	4	22.1	5	23.8	6	17.3
スモールミーティング*	5	21.9	4	27.3	4	25.8
補足資料	6	18.7	6	19.7	5	20.4
インターネット	7	12.1	7	13.8	7	13.5
IR刊行物	8	6.3	8	6.6	8	6.7

大和 IR は、資本市場に幅広い専門分野を持つ大和証券グループにあって、上場・未上場企業の投資家向け広報(IR)に優れたノウハウを持ち、専門性の高いプロフェッショナルなサービスで実績を築き、コーポレート・ストーリーの構築からIR活動のアドバイザーまで、IRの幅広いサポートを行なっています。とりわけ、企業のインターネット・ホームページによるIR分野では、他社の追随を許さないコンサルタント・ビジネスで、多方面から高い評価を頂いております。

大和 IR では、インターネット IR や効果的な企業のディスクロージャー活動を今後とも支援してまいります。

以上

【お問合せ先】 大和インベスター・リレーションズ株式会社
業務推進部長・米山徹幸 同次長・石橋卓磨
Tel 03-3243-5000 Fax 03-3271-0267